

平成24年4月20日

町立小・中学校長 様

熊野町教育委員会教育長  
(生涯学習課・学校教育課)

平成24年度熊野町「うちどく推進事業」について（依頼）

熊野町では平成24年度から、「うちどく推進事業」を実施します。つきましては、下記の3点について、教職員のみなさまにご周知くださるようお願いいたします。

### （1）「うちどく」をはじめ

- ・ ノート及び学校用マニュアルをあらかじめご一読ください。
- ・ 児童・生徒に「くまのっ子うちどくノート」および保護者用説明文を配布してください。
- ・ 「うちどく」とは何をするのか、3点を中心に説明してください。子どもから出た質問などで、不明な点があれば、生涯学習課（担当：柴原・藤川）にご照会ください。
- ・ 特に家庭で誤解の可能性があるのが、「本はたくさん読もう！ただしノートに書くのは週2回だけだよ」という点です。週2回以上記入し続けると、50週を経ないうちにノートが満了してしまいます。ノート満了による努力賞は、最も早い子どもでも来年の4月上旬となります。この点のご指導だけは、よろしくお願いします。

### （2）「うちどく」をすすめる

- ・ 子どものすぐ身近に本がある、という環境をつくるのが、本事業最大の鍵となります。学級文庫、学校図書室、町立図書館、各公民館の活用はもとより、各学校において、体制を整えていただき、新たな工夫による環境づくりにご配慮ください。
- ・ 先生方の机の上に本がある、先生方がしばしば本をパラパラめくっておられる、先生方が歩かれるとき小脇に本が抱えられている、という「子どもにとっての風景作りが意図的に必要である」と西部教育事務所・瓜生所長はおっしゃっています。
- ・ 先日の柳田邦男氏講演会でも、「うちどく」の取り掛かりとして絵本を強く推奨されていました。小学校高学年や中学生のご家庭にも、絵本から入ることは有効です。
- ・ 学校で進めておられる読書教育の効果を、一層高めるために本事業を活用していただきたいと考えております。子どもと家庭に読書を積極的に勧めるための手段として、また返却時のハイタッチは子どもとのスキンシップの機会として、ご利用ください。

### （3）「うちどく」をはかる

- ・ 「うちどく」事業は本年度の町・教育委員会主要施策の一つとして、子ども達への読書習慣浸透が注視される所です。そこで、お手数ですが集計にご協力ください。家庭環境からの影響も大きい事業ですので、比較は厳に慎みつつ、支援の方法を探りたいと考えます。
- ・ 9月と2月に、到達者数をうかがう予定です。名表による集計など、方法は今後、町内教頭会にてご相談してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。